

<千葉敬愛短期大学 平成26年度研究プロジェクト採択共同研究>

# 大滝秀子の音楽活動と子どもたちへの影響、 及び地域文化の活性化について — 活動足跡とその分析による多面的考察 —

谷中 優 / 鈴木 健一 / 大野 雄子

About Hideko Otaki's musical campaign and a influence to children,  
and activation of community culture.

— Multilateral consideration by her activity footmark and the analysis —

Suguru TANINAKA / Kenichi SUZUKI / Yuko OHNO

## 1. 研究の発端

音楽教育家・大滝秀子は、音楽サークル及び児童合唱を主宰し、永年サークルにおけるわらべ歌や童謡の実践研究と同時に、児童合唱の指導・指揮活動を継続してきた。千葉県内を拠点に地元の音楽文化発展に寄与しつつ、その活動はテレビ取材やCD制作等活発な活動を通して全国に知られるに至った。近年、氏の現役引退の折、膨大な資料（活動記録や楽譜、音源等）を本学図書館に寄贈された。

## 2. 研究の目的

- (1) 本プロジェクトでは、多面的角度からその活動足跡や資料分析を行う。
- (2) 大滝の活動から演奏楽曲そのものについて、言葉と音楽の関係性を探る。
- (3) 音楽をメディアとした活動と子どもの成長発達、あるいは音楽教育や地域文化活性化の意義性や方法論について、心理学的アプローチを含めた考察の深化を目指す。

## 3. 研究方法

- (1) 現在まで図書館員が進めていたそれらの資料整理を受け継ぎ、活動足跡のまとめと演奏資料のデータベース化、及び楽曲の分析と活動を分析する。
- (2) 多面的角度からその足跡や資料分析（わらべ歌・童謡の研究内容、演奏楽曲、及び演奏活動＝音楽的・文学的・児童心理学的側面から）と考察によって、合唱活動が子どもの成長発達にどのような影響を与えたか、また地域文化活性化の方法論としても機能する

ことを明らかにする。

- (3) 欧米における音楽教育や音楽文化は、地域文化の活性化がそのベースになっていることが多く、我が国に見られる学校教育がそれらのコアになっていることは少ない。このことは年齢にとらわれることなく誰もが地域社会において協働で音楽を楽しむことにつながっている。大瀧の実践は、まさしく学校教育と地域文化活動の垣根を取り払い、その両者が共存・共生でき得る理念と方法論を包含している。合唱活動で採り上げられた楽曲を含めた多面的なアプローチと考察の深化を目指す。

#### 4. 研究組織

氏名	役割分担	備考
谷中 優	研究代表者(楽曲分析, 楽譜作成, 指導法, 組織マネジメント)	
鈴木 健一	共同研究者(教材分析一言葉)	
大野 雄子	共同研究者(心理学的分析)	
鈴木由美子	研究協力者(楽曲整理, 楽譜作成)	本学非常勤講師

上記の表は本研究の組織と分担を示している。谷中は活動の概略と大瀧の音楽指導や団体活動のマネジメントについて、また演奏された楽曲の分析等を行う。同様に鈴木は、それらの楽曲の、主に歌詞について国語的側面からアンケート調査を通じた考察を行う。大野は、関わった子どもたちの活動体験からアンケート調査を行い、アンケートの分析から心理学的な考察を行う。研究協力者の鈴木は、楽曲群の一部を再編成し教材資料としてまとめる。以上、それぞれの分担の概略を述べた。

#### 5. 研究の現在

資料整理と分析の段階であり、一部は報告書の執筆に入っている。研究の一環として大瀧の活動の一部を音化して提示する為、敬愛フェスタ期間中、右の(資料1)のように演奏会を開催した。(2014年10月25日)資料1は演奏会のチラシである。

以上、簡単ながら共同研究の中間報告を終わる。

#### (資料1)